



発行:日本労働組合総連合会鳥取県連合会
発行人:北畑仁史 編集人:谷口龍太郎
住所:〒680-0847 鳥取市天神町30-5
TEL(0857)26-6605 FAX(0857)26-6615
E-mail:tottori@tottori.jtuc-rengo.jp
ホームページ:https://jtuc-tottori.jp

「+6月は+ 男女平等月間」 アンコンシャス・バイアス(無意識のうちに生じている思い込み)の解消をめざして! -「第22回男女平等参画学習会」で学ぶ-



講演の様子
写真上/講師 越野代表



左から/
主催者あいさつ:北畑仁史会長
「キズキアイとっとり県民共同宣言」
について解説:河村正之事務局長
「まとめ」発表:森由香里男女平等局長

連合鳥取は6月6日(土)、まなびタウンとうはく(琴浦町)に78人(内女性32人・女性参加率41.0%)が結集し、「連合鳥取第22回男女平等参画学習会」を開催しました。

今年は鳥取県が取り組んでいるアンコンシャス・バイアス(無意識のうちに生じている思い込み)解消県民運動「キズキアイとっとり」と連携し、はっぴいきやりあ代表の越野由美子さんによる講演と、「ジェンダー平等推進の取り組み」について二産別から報告をいただきました。

■講演「アンコンシャス・バイアス解消を通じた職場・社会づくりと労働組合」

講師/はっぴいきやりあ 代表 越野由美子さん (抜粋)

現在は、多様な人材が活躍することが求められています。活躍の場をつくるためには「意識せずに使っている言葉」が働く環境を左右しています。受け取った人が嫌な気持ちになる言葉を使うことは避けなければなりません。「心理的安全性※」が高い職場であることがカギとなります。アンコンシャス・バイアス(以下、アンコンと表記)が日常の些細な言動・行動で表れ、相手も意識に作用することで人間関係やパフォーマンスを悪化させています。組織にとっても人材の管理や意思決定、行動選択に影響を与え、ビジネス上の問題を引き起こす恐れがあります。

アンコンは自分自身が気づいていないものの見方やとらえ方のゆがみ・偏りから生じるものです。しかし、脳は情報と物事を瞬時に関連付けて理解しようとします。これは人が大量の情報を素早く処理して判断するための大切な機能でもあります。だからアンコンはどうしても生じるし、時と場所を選びません。「十分な証拠なし、または客観的な判断をせずに一方的に決めつけて」発することに問題があるのです。まずは自分の評価・判断を保留し他の選択肢を考え、相手の話をよく聞き対話をしてほしいと考えます。思ったことを口に出す前に「本当にそうか?」と一旦考えてから口に出せるようにしたいものです。相手への決めつけ・押しつけをなくすため、「あなたは どう思う?」「実際には どう?」と聞きましょう。自分の思いを伝えるときも「私は○○と思う」「私には○○のように見える」と自分を主語にしたメッセージの伝え方に変えていきましょう。

※心理的安全性:恐れや不安、リスクを感じることなく弱さを見せて、本音で話したり行動できる状態のこと。

■事例報告「ジェンダー平等推進の取り組みについて」

電機連合(プロテリアル労働組合)から田中智史さん、紙パ連合(王子製紙新労働組合)から門脇光浩さんにそれぞれの組織で取り組まれた内容や、取り組みを通して現れた好影響の事例などについて報告をいただきました。

産別・単組事例報告



左から/
電機連合 田中智史さん
紙パ連合 門脇光浩さん

■「キズキアイとっとり県民共同宣言」について

最後に河村正之事務局長が、鳥取県が取り組んでいる「キズキアイとっとり県民共同宣言」の内容と、宣言賛同団体に登録することで様々な支援制度を利用することができることなどを解説しました。詳しくは鳥取県HPをご参照ください。

参加者の声



自治労鳥取県本部
岡本 健太さん

我々人間にとって、第一印象や限られた機会をもとに、その人や物事を判断してしまうことは多い。
「いま思ったことが本当に正しいのか、見落としている情報はないか、...理性を持って自らを振り返るのも、人間だからできることである。
「チーム」に所属する全員が、互いを尊重し、自分自身を大切にできる環境の構築が、私の仕事に対して与えられたミッションのひとつと感じる学習会であった。



フード連合
白バラ商事労働組合
田中 綾子さん

最近よく耳にする“アンコンシャスバイアス”。
ネットで調べて雰囲気だけではわかっていたが、今回、学習会に参加し、日常の多くの言動がそれに該当するのだと気づけた。
言動の前に一度立ち止まり、相手の意見も聞き、お互いに尊重しあいながらより良い関係を築いていけるよう努力したい。

連合鳥取2026ピースウォークに参加しよう!

詳しくは
4ページに掲載

連合全国一斉集中労働相談ホットライン【0120-154-052】

フリーダイヤル いごう れんごう

～仕事で悩むあなたを応援(サポート)します!～を全国の地方連合会で実施

連合は、すべての働く人の応援団として、フリーダイヤルによる労働相談を常時受けつけています。そして、より多くの方々から相談を受けるとともに現状や課題を社会へ発信することを目的に、年3回(2・6・12月)は統一テーマを掲げ、全国の地方連合会が一斉に労働相談ホットラインを開設しています。

6月9日(火)、10日(水)、連合「男女平等月間」の取り組みの一環としてホットラインを実施し、連合鳥取においても産別(紙パ連合・情報労連・フード連合)から派遣された役員と連合鳥取専従役員が事務所に待機し相談に応じました。

この2日間で、連合鳥取に2件、全国では371件の相談がありました。

■事前PR活動を実施しました!

◇地協による街宣活動

(チラシ入りポケットティッシュ配布)

東部地域協議会【6月2日(火)/JR鳥取駅周辺】

中部地域協議会【6月1日(月)/あじそうパープル店】

西部地域協議会【役員によるポスティング】

◇報道関係各社へのPR

(2社の新聞で事前PR記事を掲載・

NHK鳥取放送局ローカルニュースで放送)

◇市町村広報への掲載



誰もが暮らしやすい鳥取県・働きやすい職場環境をめざして —鳥取労働局と鳥取県へ要請行動を実施—

連合鳥取は、6月の「男女平等月間」の取り組みの一環として、「男女平等参画社会の実現に向けた要請」を、鳥取労働局の山下禎博局長と鳥取県の平井伸治知事に手交し、意見交換を行いました。

今年度は、各地域協議会より、鳥取市・倉吉市・米子市・境港市へ鳥取県と同様の要請行動を実施する予定です。

また、鳥取労働局の山下禎博局長には「2026年度最低賃金行政に関する要請」も手交しました。

※参加者(連合鳥取)／北畑仁史会長 森由香里副会長 河村正之事務局長 安藤光平副事務局長
山下浩二副事務局長 松本善樹副事務局長 桶本早苗女性委員会委員長

【男女平等参画社会】



(写真左上)左から/松本副事務局長
山下労働局長 北畑会長
森副会長 桶本女性委員長
(写真上右)左から/
山下労働局長
北畑会長 森副会長
山下副事務局長
(写真下:意見交換の様子)/河村事務局長(一番左)

鳥取労働局



【最低賃金】

鳥取県



左から/森副会長 平井知事 北畑会長
桶本女性委員長



意見交換の様子/松本副事務局長(左手前)

2026「ジェンダー監査」にご協力ください!!

連合鳥取では、①政策、企画、結果など自組織の取り組みにジェンダー問題が考慮されているか、②ジェンダー主流化の効果・成果が出ているかを実態的に評価することで、今後の取り組みを進める素材を提供するため、現在、2回目となる「ジェンダー監査」を実施しています。

このツールは、ジェンダー主流化の実行を推進するため国連が開発し、2001年にILOが初めて導入したものです。

単組用調査票(エクセル)に入力いただくと各分野別の「YES」の数と比率が自動計算され、レーダーチャートにもグラフが表示されます。そのグラフにより、取り組みの進捗状況が分野別に表示されますので、各単組の今後の検討素材としてご活用いただけます。

単組の集計を産別で取りまとめ、7月31日(金)までに連合鳥取へご報告願います。

米子市議会議員選挙 結果

6月21日投票で実施された米子市議会議員選挙(定数26)で、連合鳥取が推薦した下記候補者は当選されました。

当選に向けてご尽力いただきましたみなさんに心より感謝申し上げます。
()は推薦依頼組織(敬称略)

当選 いとう 伊藤 ひろえ (立憲民主党) 1,957 票 (4位)

当選 なかだ としゆき 中田 利幸 (JR連合) 1,438 票 (16位)



伊藤ひろえさん



中田利幸さん

鳥取大学地域学部 佐藤研究室による「最低賃金に関わる研究発表会」を開催

6月18日(木)、「連合鳥取第7回執行委員会」の前段に、鳥取大学の学生16人による「最低賃金に関わる研究発表」が行われました。

昨年、鳥取県の最低賃金が957円から73円引き上げられ1,030円に改正されました。鳥取大学地域学部で法律学を学ぶ佐藤匡準教授のゼミでは、活動の一環として研究室の学生達が「最低賃金」を研究テーマに、昨年の最低賃金審議会・専門部会をすべて傍聴した結果をまとめ、「鳥取地方最低賃金審議会及び鳥取県最低賃金専門部会の審議過程についての考察」と題し発表されました。労働者の立場だけではなく、会社経営への影響や地域での最低賃金の違いなどについて大変分かりやすく説明がありました。

連合鳥取の北畑仁史会長は「最低賃金に興味を持ってもらってありがたい。今後も審議にしっかりと取り組んでいく」と感謝を申し述べました。

翌日の日本海新聞にも掲載され、とてもよい成果発表会となりました。

連合鳥取は、2024年1月から鳥取大学に専従役員が出向き、「労働組合って何?」「連合って何?」「連合鳥取って何をしているの?」などをテーマに「出前講座(寄付講座)」を実施しており、今回の発表会に結びつきました。また、県内の大学・高専等の卒業生に「連合スターBOOK」を、高校3年生に冊子「ザ・社会人」を配布し、若い世代に向けた啓発活動も行っています。



第14回鳥取県労働・福祉四団体合同研修会 開催

6月27日(土)、「鳥取県労働・福祉四団体合同研修会(連合鳥取・鳥取県労働者福祉協議会・中国労働金庫・こくみん共済coop鳥取推進本部)」をワイアロハホール(湯梨浜町)で開催しました。

連合鳥取から96人(うち女性27人・参画率28.1%)、労福協、労金、こくみん共済から18人のあわせて114人が参加しました。

労福協の寛雅人専務理事の司会で始まり、主催者を代表して、こくみん共済coopの松崎浩哉本部長があいさつしました。

研修会では、講師に労働者福祉中央協議会参与(前事務局長)の南部美智代さんを招き、「『労働者福祉運動の歴史とこれから』～みんなで一緒に考えよう!～」と題して講演いただきました。労働者自主福祉運動の歴史やコロナ禍の苦労、今度の取り組みなど、解りやすく説明していただきました。質疑応答の後、まとめを中国労働金庫北部エリア営業本部の仲田利幸本部長が行い、研修会を終えました。

今回の研修で、「『福祉はひとつ』～つながる 寄りそう 支え合う～」を改めて考えるきっかけになったと思います。



写真上/講師 南部さん



左から/寛専務理事 松崎本部長 仲田本部長



会場の様子

